

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果から

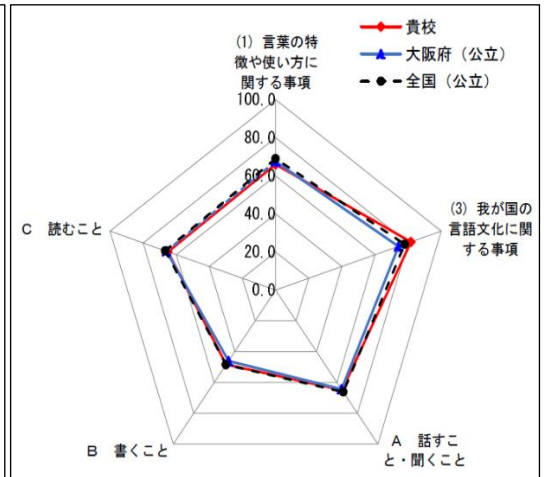
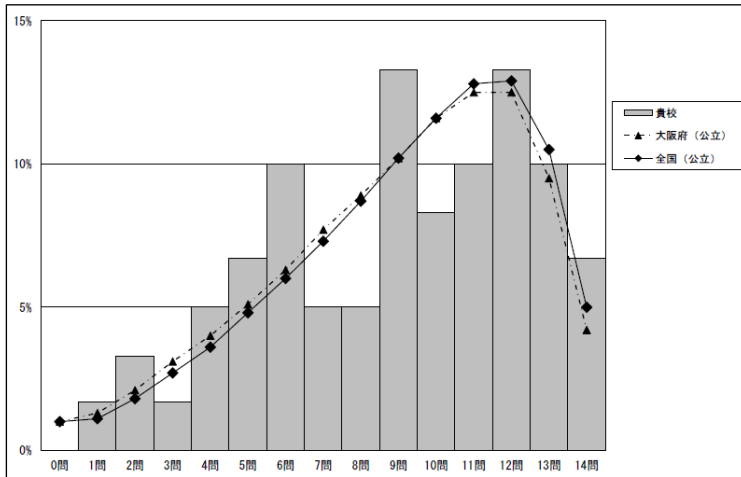
1. 結果概要

(1) 各教科の結果から

① 国語

本校の平均正答率は、大阪府平均と等しく、全国平均を下回った。

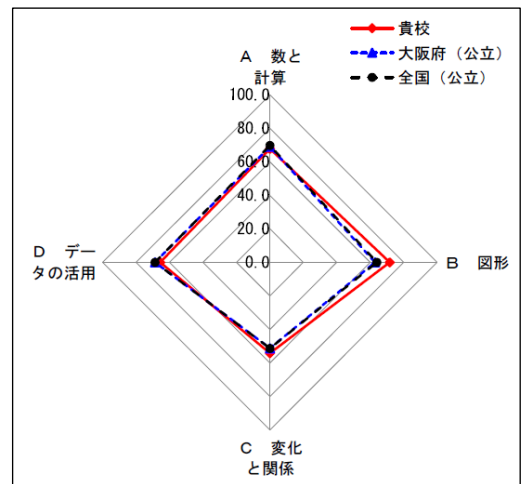
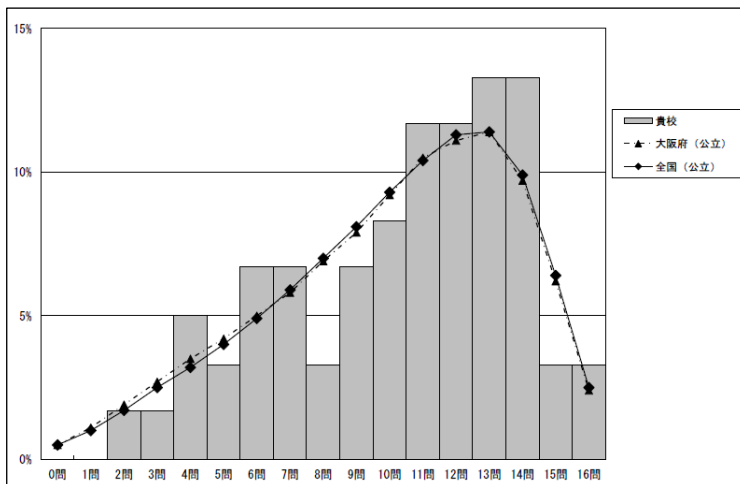
「話すこと・聞くこと」「書くこと」に関する問題は大阪府平均よりも高い。「読むこと」については、大阪府平均よりも若干低い。どの領域も、全国平均と比べると下回っていた。



② 算数

本校の平均正答率は、全国平均や大阪府平均を上回った。

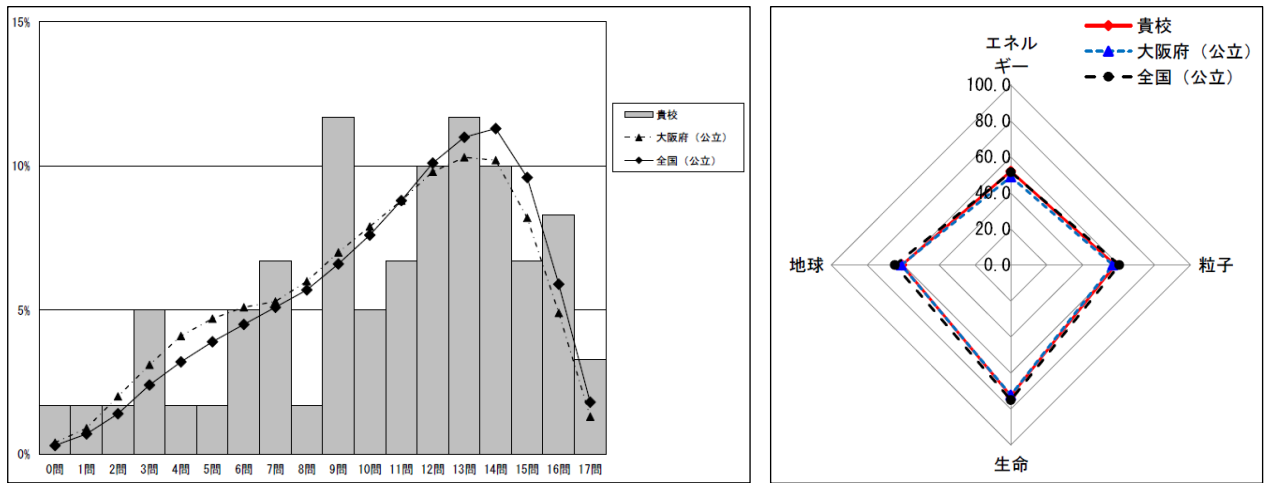
「図形」「変化と関係」に関する問題の正答率は、全国平均よりも高い。一方で、「数と計算」「データの活用」については、全国及び大阪府ともに平均値を下回り低くなっている。



③ 理科

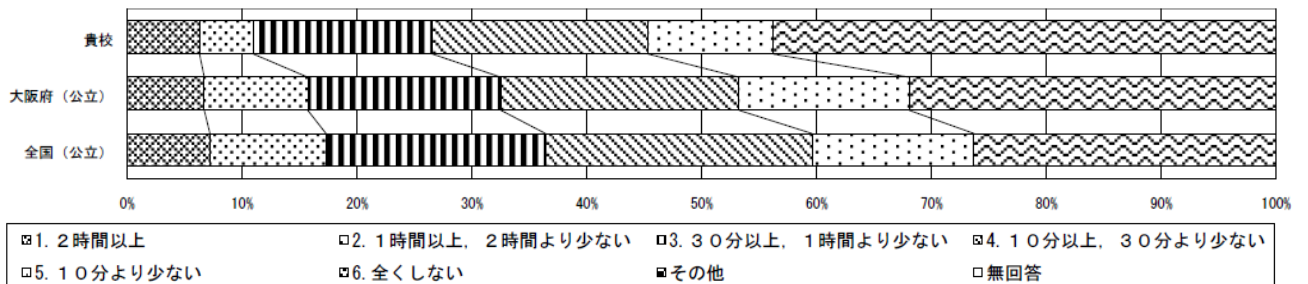
本校の平均正答率は、大阪府平均を上回った。

「エネルギー」を柱とする領域については、全国平均よりも高い。しかしながら、「粒子」「生命」「地球」を柱とする領域については、全国平均よりも低くなっている。

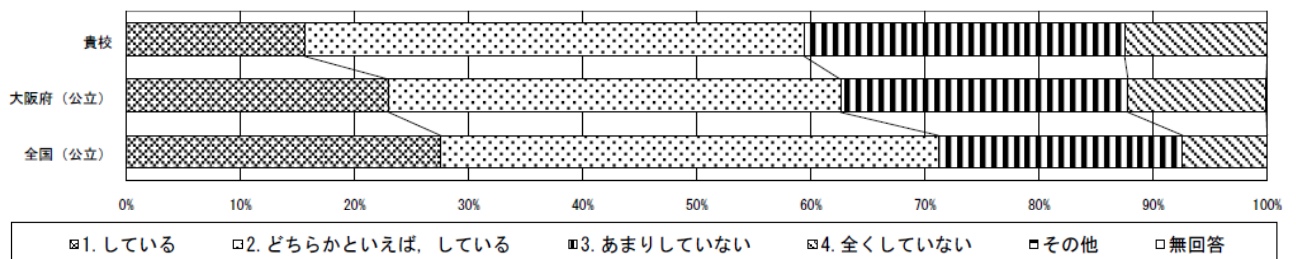


(2) 児童質問紙から

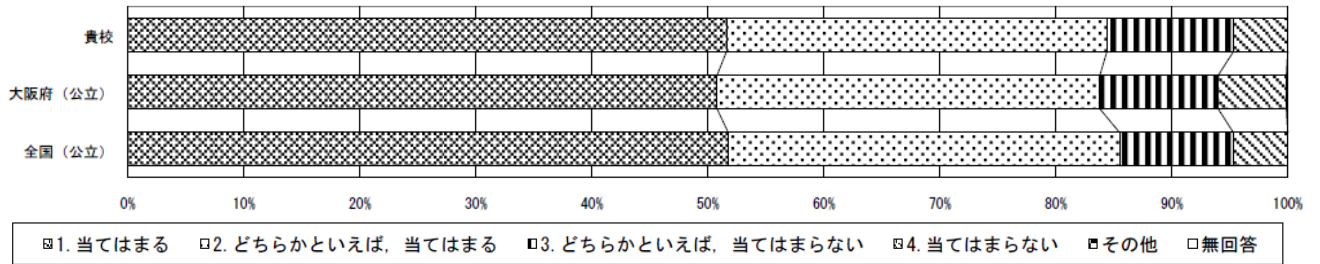
◇ 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画は除く）



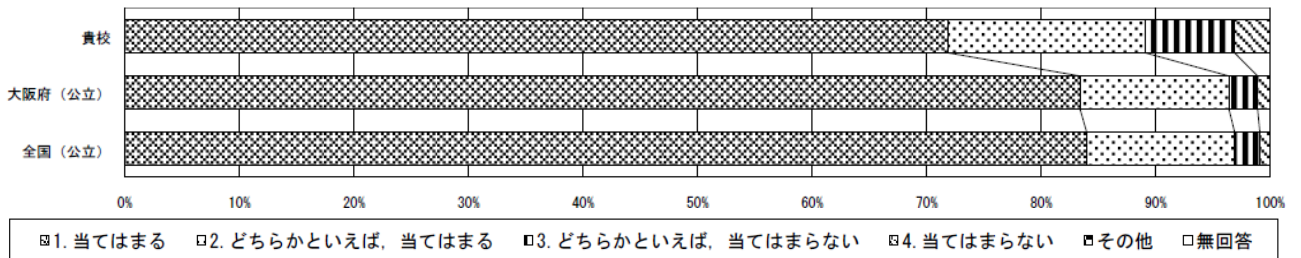
◇ 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）



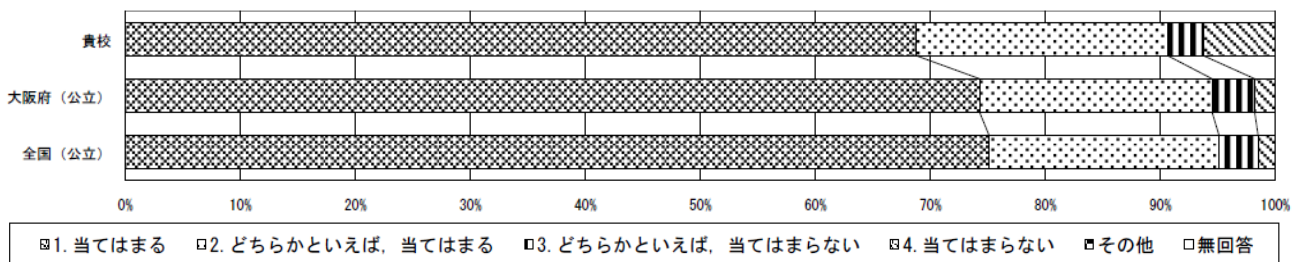
◇ 学校に行くのは楽しいと思いますか



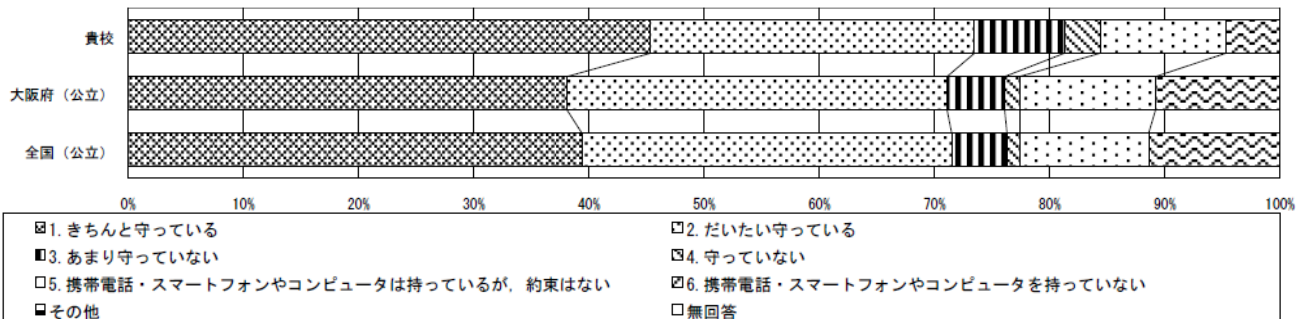
◇ いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



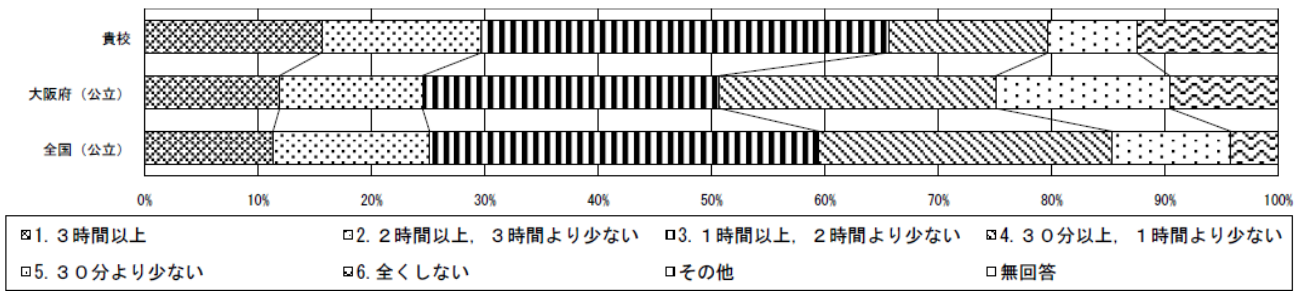
◇ 人の役に立つ人間になりたいと思いますか



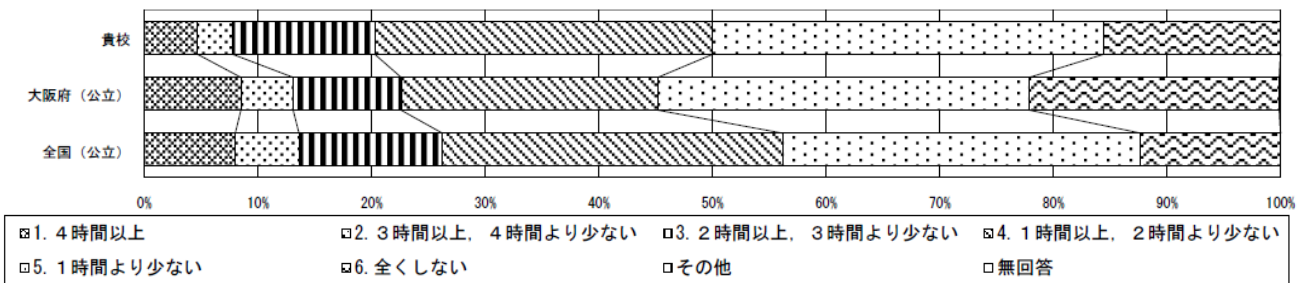
◇ 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか



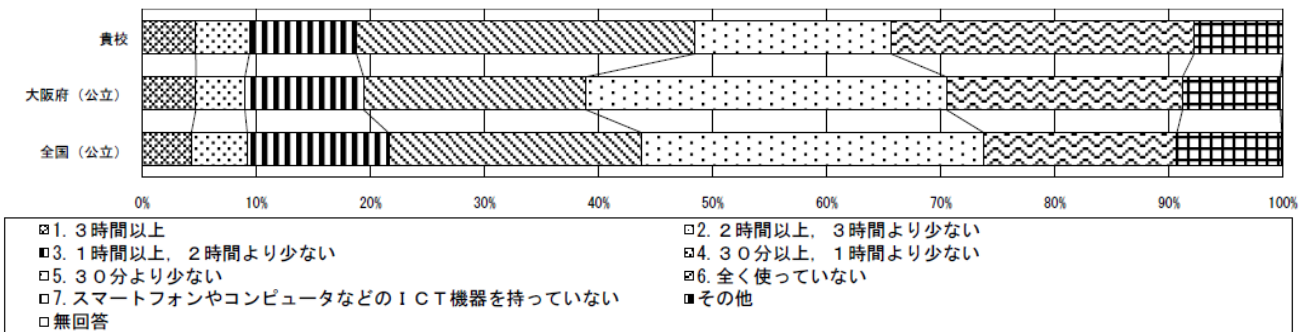
◇ 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日），1日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間，インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



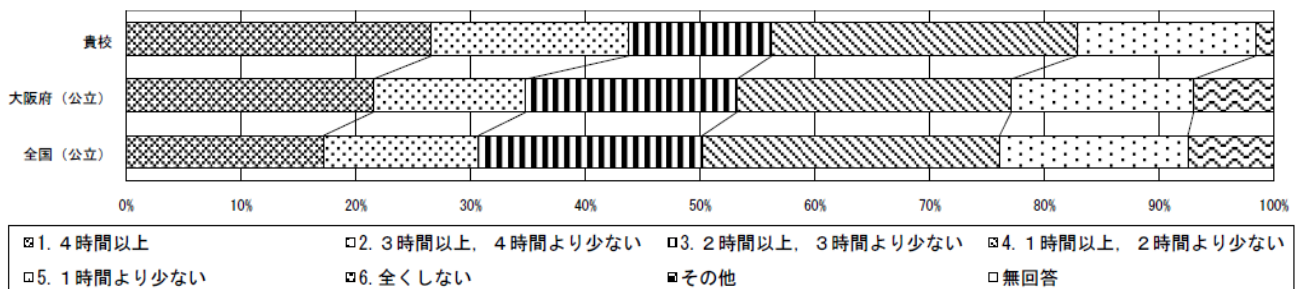
◇ 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間，インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



◇ 普段（月曜日から金曜日），1日当たりどれくらいの時間，スマートフォンやコンピュータなどの ICT 機器を，勉強のために使っていますか



◇ 普段（月曜日から金曜日），1日当たりどれくらいの時間，テレビゲーム（コンピュータゲーム，携帯式のゲーム，携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか



2. 結果から見える課題

(1) 総合的に

- ・ 問題文の意図を読み取れていない(条件の読み取りが弱い)。
- ・ 既習事項が定着していない(文法や公式など)。
- ・ 記述式回答において、無回答率が高い。
- ・ 見直しや解き直しの習慣や方法が定着していない。

(2) 国語

- ・ 漢字や文法(主語・述語、修飾語など)が定着していない。
- ・ 文章全体の構成が理解できていない。
- ・ 語彙が少ない。
- ・ 自分の考えを書くのが難しい。

(3) 算数

- ・ 記述式解答の条件が不足している。
- ・ 文や資料などから、必要な情報を取捨選択できない。

(4) 理科

- ・ 実験や観察の結果や考察を、自分の言葉でまとめることを苦手としている傾向にある。
- ・ A区分(「エネルギー」「粒子」を柱とする領域)の定着度が低い。

(5) 生活習慣・学習習慣(児童アンケートより)

- ・ スマホやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている児童が多い。
本校 73.4% (全国 71.5%)
- ・ スマホ・ゲーム等を遊びのために使用する時間が長い。
1日当たりテレビゲームをする時間1時間以上が82.9%(全国76.1%)
- ・ 家で、学習する時間が、平日は全国比よりも長いが、土日は短い。
学校以外での学習時間が1時間以上 平日 65.6%(全国59.4%)
土日 50.0%(全国56.1%)

3. 課題に至った原因(これまでの取り組みの効果検証)

(1) 授業・指導

- ・ 「読む」授業において、思い込みや推測で読みがちで、叙述を基に捉えることが不十分である。
- ・ 普段の授業で、既習事項を使う意識や態度を育てていない。

(2) 児童の学び

- ・ 宿題をする習慣がついているが、それ以上の課題に取り組めていない。
- ・ 発展的な学習に、一人で向き合い根気よく取り組むことが難しい。

4. 改善策

(1) 授業改善

- ・「教える」授業から、「子ども論理」※の授業へ教員の意識を変える。
※子どもたち自ら思考の文脈を形づくることによって、言葉に対する見方・考え方を働かせ、主体的・対話的に学ぶ。
- ・どの教科においても、例を参考に、書き方の「引出し」を増やし、自分の言葉でまとめていくことができるようにする。
- ・「わかる」「できる」ことから、長期定着までをめざす。

(2) 学力向上への習慣化

- ・見通しを自分で立て、自分の言葉でまとめ、表現して書かせる。
- ・チャレスタ(自主学習)の取り組みを推進する。(一中校区内で連携)
- ・与えられた課題等を時間内にやりきる粘り強さをつける。
- ・読書(漫画や雑誌を除く書籍)の習慣を身につける。

(3) 授業づくり

- ・授業における目標(つけたい力)を明確にし、授業計画を実行する。
- ・授業の最後に振り返りの時間を設定し、児童の学びを自覚化させるとともに、実生活や次への授業に活かす。また、知識等の定着化をねらう。
- ・個々人の課題に合った全員参加の授業をめざす。

5. スケジュール(改善策の具体的な実施)

- | | |
|-----|--|
| 通年 | ○ チャレスタ(自主学習)の推進
○ マシコレ(条件付き短作文ワーク)の定期的な実施
○ 本ごちタイム(定期的な読書タイム)の実施
○ 5分間プリント(国語・算数)の取り組み |
| 8月 | ○ 全国学力・学習状況調査及びすくすくウォッチについて、問題分析
→ 各学年の授業での意識向上・取り組みへ |
| 11月 | ○ チャレスタ(自主学習)の向上の提案(チャレスタウィーク, チャレスタコンテスト)
○ 教職員間による相互参観(校内及び中学校区) |
| 12月 | ○ 摂津市学力定着度調査実施
→ 分析
→ 取り組みへ |
| 2月 | 研究発表会
「学ぶ楽しさを実感し、確かな学力を身につける子どもの育成」
→ ふりかえり・反省
→ 次年度の研修へ |
| 3月 | 次年度への引継ぎ |